

福田令寿著「游泳陪観記」を読む

小川 尚

明治40年(1907)4月エジンバラ大学名誉教授サー・アレクサンダー・ラッセル・シンプソン博士(1935-1916)が熊本を訪れた。彼はクロロホルムを初めて麻酔に応用したことで高名なサー・ジェームス・ヤング・シンプソン前エジンバラ大学教授(1811-1870)の甥で、叔父の死後35歳の若さでその教授の席を継ぎ、同大学医学部産婦人科教授として35年間勤め、王立救急病院 Royal Infirmary と王立産院 Royal Maternity Hospital にもオフィスを持ち、世界の優れた産婦人科医を養成してきたのである。サー・アレクサンダーは大変信仰の厚い人で、手術前にもお祈りをした程である。既に2年前に大学を辞し、予て属していた United Free Church of Scotland の宣教師としてこの度インドとシナを旅したが、その途中東京で開かれたキリスト教青年世界大会にも出席し、日本に20余日滞在した。かつて同博士の下で産科婦人科学を学んだ福田令寿(よしのぶ)氏は通訳を兼ねて各地を案内し、熊本にもお連れしたのである。

4月17日、熊本では、この偉大な産婦人科医サー・アレクサンダーを迎えるに当たり、東肥医学会会長山崎正薫氏(熊本医学校産婦人科教授、後の熊本医科大学学長)は高瀬駅から上熊本駅まで、サー・アレクサンダーの客車に同乗して歓迎の意を表した。同日東肥医学会春季総会を開き、サー・アレクサンダーは「医家の回想」と題して、近來の医術の進歩について話をした。

福田氏は、サー・アレクサンダーが新渡戸稲造著「武士道」を読んでいると察し、日本の武士道の真髓について知りたいと思っていると察し、流鏝馬と游泳術を見せた。両方とも細川藩の武術であって、現在熊本県の無形文化財に指定されていて、火の国祭りの期間熊本城で披露されている。

4月18日、午前中水前寺成趣園で流鏝馬を見、正午近くに船で江津橋まで下り游泳術を見た。この游泳術は現在小堀流踏水術と称されているもので、猿木宗那第6代師範の高弟が御前游(ごぜんおよぎ)に始まり幾つかの游泳を披露した後、最後に猿木宗那師範が浮身六体を行い、更に浮身書(水に浮いたまま字を書く)で「水月」と書いた。水月の意味(無心)をサー・ア

レクサンダーに問われて、詳しく説明したところ、自身の信仰している宗教と同じであるが未だその境地に達していないと言って感心したという。

この出来事は、猿木宗那師範にとっても記念すべきことであつたらしく、本妙寺裏山市営墓地に建つ同師範を賛える墓碑にも書かれている。

書名からも分かるように、福田氏はこの書の大半を小堀流踏水術披露に費やしているが、出版したものがどうか不明である。数年前猿木恭経第十代師範のご好意で見せて頂いた。

2年前文部省短期在外研究員として欧米の大学を訪問したおり、20年前に滞在したエジンバラ大学を訪ね、知人でエジンバラ大学名誉教授A・イゴ博士のご協力を得て、サー・アレクサンダーに関係することを調べてみた。サー・ジェームスについては全身麻酔の創始者(華岡青州の方が実際は早い)としてプリンセス通を始めエジンバラ市内の至る所に銅像を建て顕彰してあったが、サー・アレクサンダーのものではなく、The Royal College of Physicians, Edinburgh で初めてポートレートと弔辞を目にすることができた。彼は1916年自動車に轢かれた傷がもとで、以前勤めたことのある王立救急病院で亡くなられた。享年90歳であつた。

著者の福田令寿氏は明治6年1月蘭方医福田杏春の四男として現在の松橋町豊福に生まれ、同24年草場町教会で洗礼を受け、25年熊本英学校卒業後渡英し、33年7月エジンバラ大学医学部を卒業、熊本に帰られてからは医師会関係のみならず教育(例えば熊本医学校や五高の嘱託)や福祉関係にも活動された。後に熊本県教育委員長(昭和24年第二代)も勤められ、熊本市名誉市民(昭和34年)となられ、昭和48年満100才で老人性肺炎で逝去された。

最後に、小堀流踏水術は細川藩上士の習得すべき武術の一つで、時習館設立時に命じられた初代師範は小堀長順(茶道師範を兼ねる)である。同氏の書いた世界最初の水泳書「踏水訣」は永青文庫に収められていて、本学図書館本館で原著を見ることが出来る。

(おがわ ひさし 医学部教授 生理学)